

横浜美術館

平成 20 年度業務報告書及び収支決算書

財団法人横浜市芸術文化振興財団

横浜美術館

平成 20 年度業務報告及び収支決算

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階一部3階建
敷地・延べ床面積	延床 26,829.4 m ²
開館日	平成元年 11 月 3 日

2 指定管理者

共同事業体名	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体
代表構成団体	財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 20 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

3 平成 20 年度総括

平成 20 年度は横浜美術館指定管理者共同事業体(横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント)による美術館運営初年度でした。年間を通して共同事業体構成員が常に相互に連携を図りながら、それぞれの役割を計画通りに実施し、効率的な管理運営を行うことができました。

企画展では、特別展「源氏物語の 1000 年展-あこがれの王朝ロマン-」、「セザンヌ主義」展をメディアと共催して開催し、多くのお客様にご来館いただきました。いずれも大規模展の集客力を活かし、地元商業施設とのタイアップを多く企画し、地域ぐるみの盛り上がりを演出できました。今後もこの連携を強化し、発展させてゆきたいと思えます。

教育普及事業や人材育成事業では、インターンやボランティアを積極的に活用し、市民協働の機会を提供しました。創造活動支援事業では、新進アーティストの創作活動を支援し、館内のみならず、黄金町バザールや横浜アート&ホームコレクションなど、周辺地域での事業展開を活発に行いました。また、次年度に向けた開港 150 周年事業への支援も具体的になってきました。

年間総入館者数 770,310 人

4 業務報告

業務計画における取組みの項目・方針	業務報告(取組み内容)
【自主事業】	
<p>①学芸業務事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の最も基本的な機能である作品収集、保存管理、調査研究、展覧会企画の各業務を行います。「観る」「創る」「学ぶ」という美術館の全活動の基盤である収蔵美術品の収集・保存・研究、及び企画調査を確実にを行い、市民に「新しい価値の発見」をもたらし、横浜の魅力を国内外に発信します。 ・収蔵美術品の日常管理を確実にを行います。 ・他の美術機関・大学などと連携し、ネットワークの強化を図ります。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収集候補案の市への提案 年1回 ●横浜美術館研究紀要の発行 年1回 ●博物館実習受入 年1回 ●他美術館、施設との共同企画 年4回 	<ul style="list-style-type: none"> ●収集候補案の市への提案 ・日本画家片岡球子氏(H19逝去)からの遺贈作品4件5点を提案し、了承されました。 ・市との協議を踏まえて新たに「中期重点取組方針」を策定し、同方針に基づく作品調査を継続しました。 ●研究紀要 3月末日に発行しました。 ●博物館実習 7月21日～29日に実施し、25名の参加がありました。 ●美術作品 ・薬剤に頼らない有害生物管理(IPM)講習(財団法人文化財虫害研究所主催)に参加しました。 ・所蔵作品貸出 貸出20件186点 返却34件164点でした。
<p>②展覧会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より広く多角的なアプローチと外部との連携により、オリジナルでクリエイティブな4本の企画展を開催し、美術を通して「横浜ならではの」魅力を発信します。 ・横浜美術館の収蔵美術品を紹介するため、3期に分けてコレクション展を開催します。その中で、横浜美術館の代表的作品を通年展示するコーナーを設け、繰り返しの鑑賞を可能にし、作品と市民との親密度を高め、また遠方からの来館者の期待に応えます。 ・展覧会関連事業を周辺地域へ展開します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●4つの企画展で来館者566,000人を目指します。 ・木下孝則展:26,000人 ・わたしの美術館展Ⅱ:30,000人 ・特別展 源氏物語の1000年—あこがれの王朝ロマン:210,000人 ・「セザンヌ礼賛—20世紀絵画への影響と展開」展:300,000人 ●企画展観覧券の前売りは2ヶ月前から開始します。 ●展覧会関連事業の周辺地域への展開 年2回 	<p>横浜ゆかりの画家の個展、コレクションを活用したユニークな企画展、メディアと共催し大量動員を目指した日本古美術の展覧会と西洋近代美術の展覧会を企画実施し、市民の多様な関心に対応できました。</p> <p>企画展総入館者数 324,335人 コレクション展入館者数 347,335人</p> <p>大量集客を目指す企画展2本を実施しましたが、当該期に関東圏で開催された多くの大型企画展と結果的に競合したこと、急激な景気低迷の影響を受けたことを主因とする入館者数の伸び悩みが、大きな課題となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「昭和の気品、横浜の洋画家・木下孝則展」 4/11～6/8 総入館者16,792人 当館が初めて手がけた近代日本洋画家の個展で、新たな観客層を掘り起こしました。中高年層のニーズと集客性の両立が課題となりました。 <p>◇関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会 1回 ・共立女子短期大学との連携展示(4/25～5/7) ・外部ゲストによるギャラリー・トーク 1回

●企画展と連動したコレクション展 年2回

●コレクション・トーク 年10回

●「茂木健一郎・はな・角田光代・荒木経惟 4人が創る「わたしの美術館」展」

6/20～8/17 総入館者 24,993 人

4名のゲストキュレーターを迎え、当館コレクションの新たな魅力を提供しました。

◇関連事業

- ・キュレーターごとに関連イベントを1回ずつ開催。
- ・子どものためのワークシートを作成。

●特別展「源氏物語の1000年ーあこがれの王朝ロマンー」 8/30～11/3 総入館者数 133,582 人

源氏物語千年紀と連動し、日本中世美術や日本史、王朝文学に関心のある新たな観客層を誘致しました。

◇関連事業

- ・特別レクチャー 4回
- ・瀬戸内寂聴氏講演会 1回(関内ホール)
- ・横浜能楽堂との連携事業 計5回(横浜能楽堂)
- ・周辺自治体での文化講演会 計10市区

●「セザンヌ主義ー父と呼ばれる画家への礼讃」展 11/15～1/25 総入場者数 148,961 人

セザンヌの名作約40点を含む国内外巨匠の作品約140点を展示、それらを並置・比較、近代絵画の発展にセザンヌが果たした役割を検証し、内外から高い評価を得ました。

◇関連事業

- ・記念講演会 4回

●コレクション展 入館者数 347,335 人

・第1期 4/5～7/13

・第2期 7/21～11/3

・第3期 11/12～3/1

◇関連事業

- ・ギャラリートーク 年間11回
- ・アップル社・城西国際大学メディア学部と iPod touch を使った音声ガイド提供。[2日間]

●コレクション展の企画展との連動

・第1期:「木下孝則展」と6月「横浜フランス月間 2008」に合わせた小企画。

・第2期:「源氏物語の1000年展」と連動して「描かれた物語をよむ」を企画展示。

・第3期:「セザンヌ主義」展と連動した「絵画的写真の展開 1850-1920」。

	<ul style="list-style-type: none"> ●前売り券 木下展は1ヶ月半前、その他3企画展は2ヶ月前に販売開始しました。 ●周辺地域への展開 ◇源氏物語展 <ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークプラザ(草月流生け花展示、人力車、相互割引) ・周辺ホテルで特別メニュー提供。(ロイパーク H、パンパシフィック H) ◇セザンヌ主義展 <ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークプラザ(展覧会紹介展示、クイズラリー、スカイガーデン「カフェ・セザンヌ」、飲食店との連携など) ・元町(展覧会紹介展示、店舗との連携、関連商品の共同開発販売) ・ロイヤルパーク H (講演会、特別メニュー) ◇アーティスト・イン・ミュージアム横浜 <ul style="list-style-type: none"> ・黄金町バザールと連携。(詳細は AIMY 参照)
<p>③教育普及・人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インターン・市民ボランティアの受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・インターンを受け入れ、美術館事業についての実践的なノウハウを社会に還元します。 ・市民ボランティアをホームページや館内での案内で募集し、市民が事業を支援する協力体制を構築します。 ●子ども関連 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと美術館をむすぶ人材を育成し、それによって館外でのアウトリーチ活動を行う体制を築きます。 ・鑑賞教育に関して大学と連携した事業を実施します。 ・インターンを受け入れ、子どもの事業に対する考え方と実践的なノウハウを社会に還元します。 ●横浜美術館塾の開講 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館の観客誘致を目的とした多様なアートシーンに出会い、そして学ぶ、スクーリング形式の講座を行います。 ・本物と出会う体験を深め、美術への興味を広げ、市民の多様な好奇心に応えます。 ・美術普及を目的としたアウトリーチ活動を展開します。 ・市民の交流や生涯学習を支援します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インターン・市民ボランティアの受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・年間約10人のインターンを受け入れます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターンを受入れました。 <ul style="list-style-type: none"> 子どものアトリエ 16名、AIMY1名、セザンヌ展1名 ●市民ボランティアを受入れました。 <ul style="list-style-type: none"> 市民のアトリエ 17名 子どものアトリエ 14名 美術情報センター 14名 木下展関連事業の展示作業・展示監視に市民ボランティアが参画しました。 ●子ども関連 <ul style="list-style-type: none"> ・指導者育成講座を新たに開催しました。 ・夏休み子どもフェスタ2008を開催しました。参加者数2,812名。 ・アートティーチャーズデーを企画展ごとに開催しました。延べ64名の参加がありました。 ・大学との連携にメリットを見出せなかったため、今後は鑑賞教育に特化したインターンを公募、コレクションを中心とした教育普及を強化することが課題です。 ●横浜美術館塾について <ul style="list-style-type: none"> ・多彩な講座ラインナップで観客誘致に寄与しました。 ・市民がアートを学ぶきっかけとなり、美術普及に寄与しました。 ・全ての講座で収蔵作品を活用し本物と出会う体験を実現しました。

<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会、アトリエ事業、アーティスト・イン・ミュージアム横浜事業、美術情報センター運営などの事業に対し、補助業務を中心とした市民ボランティアを活用します。 ●子ども関連 ・幼児・児童専門のプログラムをアウトリーチで実行できるワークショップアーティストを子どものアトリエの事業を通して引き続き育成します。 ・大学生の「博物館実習」を事業化し、有料で「展覧会企画」「教育普及」「アートマネージメント」のトレーニングを行います。目標受入人数 40 名 ●横浜美術館塾 ・クリエイティブなプロの講演会と対談を主軸としたカリキュラムを企画します。 ・塾生が交流を楽しむ旅行を企画します。 ・集合住宅や高齢者施設で、講演会やワークショップ、美術図書のアウトリーチ活動を実施します。目標回数 年 2 回 ・近隣商業施設と連携して活動します。 ・塾の活動を、企業との連携で行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術鑑賞愛好家が交流できる公開講座を開催して目的を達成しました。 ・年間受講者数 延べ 1,660 人 ・次年度の課題は、市民から収集した要望を次年度に反映し、講座内容をブラッシュアップすることです。
<p>④子どもに対する取組み事業</p> <p>子どものアトリエを中心として下記の方針で取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形及び鑑賞活動を通して子どもたちの将来にわたって美術を愛する心を育みます。 ・幼児・児童を対象にワークショップを中心にした体験型のプログラムを提供すると共に学校教育と連携したプログラムをより充実させます。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●講座の定数、定員の 100%確保 ●翌年度の年間スケジュールを全学校に Web 配信します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●講座達成率 ・「学校のためのプログラム」達成率 98%。 ・個人講座 22 講座開催。達成率 110%。 ・教師のためのワークショップ夏期講座・春期講座、達成率 112%。 ●その他 ・1 日祝日講座(年間 6 回)を復活しました。 ・横浜市工研夏期講習(3 日間)等を 13 件実施しました。参加者数 752 名。 ●「Heart to Art」関連プログラムを 4 回実施しました。 ●スケジュールの Web 配信 ホームページ上で最新情報を公開しました。今後も更なる充実を目指します。 ●子どものアトリエ 年間利用者数 31,707 人
<p>⑤市民の創作活動支援事業</p> <p>～創ることにより美術を学ぶ～</p> <p>市民のアトリエを活動の場として下記の方針で取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の創作活動をより活性化し市民生活と美術をより密接なものとするを目的とし、市民の創作活動を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民のアトリエワークショップ 32 種類、56 コースを実施し、年間延べ 6,346 人の利用者がありました。定員達成率 87%。 ・企画展関連講座 2 回 ・横浜美術館所蔵作家のワークショップ 1 回 ・地域との連携 3 回 ・カフェ及びショップとの連携企画 1 回

<p>・地域の創作活動の拡充を図るため各種団体、企業等との連携を図ります。</p> <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会、美術館塾と連携した講座を設けます。 ● 講座の定数、定員の 85% の参加者を確保します。 ● 収支均衡を最低条件とします。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 収支差額はプラスとなっており、収支均衡は達成しました。
<p>⑥創造活動支援事業</p> <p>ーアーティストの創造活動を支援しますー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内施設での国内外の若手、新進アーティストによる創造・発表活動を支援します。 ・アーティストの表現活動を核とした、市民と地域との交流を促進し、アートを介した人的ネットワークを形成します。 ・創造境界のアートプログラムおよび市内における支援協働プログラムにおけるアーティストの創造・発表活動を支援します。 ・横浜発の新しいアートの発信を目指します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新進アーティストによる滞在制作、展示企画の実施(4 企画) ● 展示やワークショップなどのアウトリーチ事業へのアーティスト派遣(2組) ● アーティスト滞在記録集 2007 年度版の発行と、2008 年度版の製作。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アーティスト・イン・ミュージアム横浜 ・3名の新進アーティスト滞在制作を実施しました。 ・うち、2名は公募により39名の応募者から選出しました。 ・全員が市民との協働による作品制作と発表しました。 ● New Artist Picks ・市内在住の新進アーティストの個展を開催、来場者は 18,000 人でした。展示作品はその後、海外での企画展に出品されました。 ● 財団広報誌「ヨコハマ アートナビ」に新進アーティスト 12名を推薦し、紹介されました。 ● 黄金町バザール ・横浜美術館ブースで3名の新進アーティスト連続個展とワークショップを開催しました。 ● 連携事業 ・東京藝術大学大学院映像研究科と新進アーティスト滞在記録撮影と製作を行いました。
<p>⑦広報・企画事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報 ・効果的かつ早めの広報により利用者数を安定させ、「横浜美術館ファンの裾野の拡大」および「安定的な事業の健全な運営」を実現し、美術の普及振興につなげます。 ・指定管理者共同事業体を構成する相鉄エージェンシーが、各企画展等のプレスリリースの実務を担い、より効果的な広報の在り方について提案することによって広報効果の更なる向上に努めます。 ・お客様にとって魅力ある美術館を実現するため、市民の声を反映させる手法を確立します。 ・効率的な事業の情報提供・宣伝が行えるよう、これまでの取り組みを精査し、費用対効果の高い広報を実現できるよう努めます。 ・大学との連携を通じてホームページの構成を改善しま 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協賛 ・協賛金プログラム“Heart to Art”を正式にスタートしました。 ・通期をとおして目標金額と活動主旨の広報を達成しました。 ・来期に向けた継続的なファンドレイズと商品販売による収益の素地を作りました。 ● 広報 ◇全体 ・企画展 2ヶ月前と年 4 回のプレスリリースを行いました。(相鉄エージェンシーと連携) ・担当学芸員が取材やメディア出演に対応しました。 ・予告バナー・告知バナーを設置しました。 ・源氏物語展、セザンヌ主義展では、早期に記者会見を実施しました。 ◇地元広報

<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●協賛 <ul style="list-style-type: none"> ・相鉄エージェンシーとの協働事業 企業協賛金獲得のためのプログラム開発と収益事業拡大の2軸で収入を確保します。 ●広聴 <ul style="list-style-type: none"> ・対面アンケートとホームページの2軸でアンケートを実施し、館運営に反映します。 ●観客誘致 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館ファンの裾野を拡大し、利用者数を安定させ観客誘致につながる事業を行います。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者共同事業体と協力した広報:企画展等のプレスリリース ●相鉄エージェンシーとの協働事業 予算目標の達成 ●アンケートや市民意見交換会を実施した結果を館運営に反映するプログラムを実施します。そのうえで、各展覧会で対面アンケートやホームページでのアンケートを実施します。 ●ホームページ上で利用者アンケートを実施し、高い評価を得られるようにします。 ●YMA クラシックライブを年 12 回行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市内約 30 の商店街との新たな連携に取り組みました。 ・横浜市営地下鉄、東急東横線、首都高速道路(株)から無償ポスター掲出協力を獲得しました。 <p>◇学校連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際城西大学と連携してホームページをデザインしました。 <ul style="list-style-type: none"> ●広聴 <ul style="list-style-type: none"> ・各展覧会ごとに対面アンケートを実施しました。 ・アンケートの意見や E メールによる照会への正確丁寧な返答しました。 ●観客誘致 <ul style="list-style-type: none"> ・クラシックライブ(年 23 回)、図工教室、特別鑑賞会を定期的に開催しました。 ・割引券を周辺地域、町内会、大学等教育機関等に有効に配布しました。 ・希望する団体入館者にミニレクチャーを無料で行いました。
<p>⑧横浜トリエンナーレ・開港 150 周年関連事業等への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●横浜トリエンナーレ <ul style="list-style-type: none"> ・アジア周辺地域(韓国、中国、オーストラリア、タイ等)との相互協力関係を強化し、人的交流とアートを支える内外の人材ネットワークの構築とその活用に向けた環境を整備します。(学芸) ・横浜トリエンナーレ 2008 のプレ企画として、美術館内外における若手アーティストによる小企画を提案します。(創造活動支援) ●開港 150 周年 <ul style="list-style-type: none"> ・開港 150 周年記念事業として、原三溪の事跡を市民や関係機関と協働して調査研究し、開港 150 周年の当該年度に、成果をまとめた書籍の刊行を目指します。(学芸) ・開港 150 周年にむけて、「横浜」を素材としたアートプロジェクトの募集を行い、実施にむけての準備を行います。(創造活動支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜トリエンナーレ支援 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア周辺地域との相互協力関係を強化しました。 ・アジア地域ネットワーク構築と活用への環境を整備しました。(野村財団助成金及び高島屋文化基金) ・平成 21 年度のシンポジウム実施準備。 ・「黄金町バザール」に横浜美術館ブース設置を設置し、「アーティスト・イン・ミュージアム横浜」事業を展開しました。 ・同プロジェクトに人的・組織的に深く参画しました。 ●開港150周年関連 <ul style="list-style-type: none"> ◇原三溪研究会 <ul style="list-style-type: none"> ・原三溪研究会を毎月実施しました。 ・『原三溪翁伝』刊行に向け準備を行いました。 ・研究会メンバーを講師として、講演会「原三溪を考える」(3/28)を開催、228 名の参加者がありました。 ◇その他 <ul style="list-style-type: none"> ・西区と連携し、2/13 からグラントギャラリーで日比野克彦作のふねを展示しました。

<p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前年度(平成 19 年度)の活動報告書作成 アジアにおけるアート・ネットワーク形成のためのシンポジウムとワークショップ開催(学芸) ●原三溪市民研究会を組織、開催し、藤本實也の稿本『原三溪翁伝』の校訂作業を、市民、三溪園、関係民間団体と協働して実施します。(学芸) ●三溪園等の関係機関や研究者と協働して、原三溪の残した未刊行の手稿の調査を行うとともに、原三溪が蒐集した美術品等のデータベースの構築に取り組みます。(学芸) ●トリエンナーレ会場と美術館との間に位置する会場(例:みなとみらい線各駅、ランドマークプラザ等)で展開するアートプロジェクト、イベントの提案(1~2 企画) ●アーティスト・イン・ミュージアム横浜の公募企画として、開港 150 周年にふさわしいアートプロジェクトを募集。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たねまるスタンプラリー」に協力し、たねまるポットをギャラリーに設置しました。 ●公募企画「OFF SITE 2008」 「横浜」をテーマにアーティストを公募、2名の滞在制作を実施しました。
【運営】	
<p>①施設の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の開館日に加え、年末年始開館、休館日を活用した新たな活動など、魅力的な施設提供を行います。 ・誰にでもやさしいバリアフリーの施設を目指します。 ・集客型の展覧会にも混乱なく対応できるよう、これまでのノウハウを活かした施設運営を行います。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年末は 12 月 31 日まで年始は 1 月 2 日から開館します。 ●駐車場の障害者割引制度を実施します。 ●休館日を活用した活動を行います。 ●介護士等の指導によるバリアフリーに関する職員研修を行います。 ●観覧券販売システム更新を検討し、平成 20 年度での更新を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年末年始開館 年末は 12/31 まで、年始は 1/2 から開館しました。 ●駐車場障害者割引制度 障害者手帳をお持ちの方への 90 分駐車場無料サービスを開始しました。 ●休館日を活用した活動 休館日を活用し特別鑑賞会を実施しました。 ●バリアフリー ・バリアフリー研修を 3 月 9 日(月)に実施しました。 ・「わたしの美術館」展で視覚障害者団体に担当学芸員がアテンドしました。 ●券売システムの更新 ・わたしの美術館展から、券売システム「券作くん」を導入しました。金氏徹平展(3/20~)から、プリント発券に移行し、チケット在庫管理廃止と、事務の軽減を実現しました。
<p>②レクチャーホール管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャーホールを効率的に運営します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レクチャーホールの利用率 60%(時間帯利用数)を目 	<ul style="list-style-type: none"> ●年間利用率65%で目標を達成しました。 ●年間利用者数 17,386 人

<p>標とします。</p> <p>③美術情報センター運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和・洋雑誌の収集を継続して行います。 ・受け入れ図書を迅速に公開できるよう手続を工夫し、業務を効率化します。 ・展覧会と連動した図書や映像資料を公開します。 ・美術情報センターの利用促進を目的とした広報を積極的に行います。 ・インターンやボランティアと共に活動し市民に開かれた美術情報センターを目指します。 ・収蔵図書データを他の美術館と共有し広く市民に公開します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●美術図書と映像を活用し展覧会事業を支援します。 ●メールマガジンに美術情報センターの紹介を掲載します。 ●市民を対象とした美術情報センター普及事業を行います。 ●年間を通してボランティアを受け入れます。 ●カタログ類の受け入れ作業を見直し効率化します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●展覧会事業支援 ・展覧会ごとに、関連コーナーを設置しました。(年 9 回) ・展覧会関連の映像資料を紹介しました。 ・トピック的な「特設資料コーナー」を同年 10 種展示しました。 ●広報 ・メールマガジン、ALC ブログを活用して、美術情報センター事業を紹介しました。 ・ホームページ上で写真を使った事業紹介などを PR しました。 ・インターネット蔵書検索の操作改善を行いました。 ●ボランティアの受入れ 14 名 ●普及事業 ・横浜美術館塾受講生へのオリエンテーションを行いました。 ・ボランティア学校受講生への業務紹介や書庫見学を行いました。 ・市民利用者対象の探検ツアー(9 名参加)を行いました。 ●作業効率化 ・手書きの原簿登録やラベル作成を廃止し、データから原簿やラベルを印刷するようにしました。 ・チラシ・DMの受け入れ方法を改善し、作業の効率化をはかりました。 ●年間総利用者数 32,038 人
<p>④ミュージアムショップ・カフェ・駐車場運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様のニーズに応える品揃えと価格設定を常に考え、堅実かつ合理的な経営を通じ、来館者へのサービスの質を向上させます。 ・カフェに併設しているフリースペースを有効に活用し、お客様にとって居心地の良い空間の提供に努めます。 ・ミュージアムショップ及びカフェについては、展覧会等事業に合わせた連携を行いより魅力的な運営をします。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●展覧会にあわせて店舗規模や商品を検討します。 ●カフェ利用者増を目指し、大型展開催時の観客動線を全館的に見直します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ミュージアムショップ ・黄金町バザール関連の企画販売会社(21_21DESIGN SIGHT)と連携し、経費をかけずにショップを一部リニューアル、新商品を販売しました。 ・源氏物語展、セザンヌ主義展では、ミュージアムショップ、カフェ方向に出口動線を確保、売上げアップを実現しました。 ・H21 金氏徹平展との連携企画として、スタージュエリーと商品開発を行いました。 ●特設売店 源氏物語展・セザンヌ主義展で、横浜市の目的外使用許可を得て、展示室内に特設売店を設置しました。図録・グッズ売上げも好調でした。 ●カフェ カフェ小倉山と毎月1回の定例ミーティングを実施しました。(7月～)

<p>⑤NPO活動支援センター運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館と協働して事業を行えるNPOの活動場所として、協働の現場である展示室やアトリエにも近い利点を生かした美術館2階のNPO活動支援センターを中心とした協働事業を行います。平成20年度は横浜トリエンナーレ支援を協働できるNPOを想定しています。 ・本格的な活動に備えてセンター内を整備します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NPOと協働して横浜トリエンナーレを支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワーキングルームとして活用 ・年間を通して、インターンやボランティアが活動しました。 ・若手アーティストの制作場所として活用しました。 (「アーティスト・イン・ミュージアム横浜」滞在作家の制作等) ・横トリサポーターズの打合せ場所として活用しました。 ・金氏徹平展(H21事業)作家滞在制作場所として活用しました。
<p>⑥施設の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署から受けている特例認定の範囲内でグランドギャラリーの有効活用を進めます。 ・自主事業で使用しない施設は外部と連携を図り、積極的に活用します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グランドギャラリーの活用 年50回 ●外部からの施設利用要望に柔軟に対応します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●グランドギャラリーの活用 ・企画展オープニングほか計20件、延べ190日活用しました。 ●外部と連携した活用 ・日仏アフリカ写真展ほか計7件、延べ25日活用しました。
<p>⑦組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者共同事業体構成員の専門性を発揮できる体制を構築します。 ・各チームが横断的に事業に関わり、それぞれの専門性が総合された事業を展開します。 ・より専門性が高く、質の高い事業を提供するため、外部の意見を取り入れる体制を確立します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●共同事業体のミーティングを月1回開催し運営改善につなげます。 ●経営アドバイザー会議を立ち上げ、会議を年2回行います。 ●各事業で自己評価を行いPDCAサイクルを実施します。 ●全館的に取り組む事業についてはプロジェクトチームを組織し事業を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●共同事業体 ・三菱地所ビルマネジメントとの定例会を毎月開催しました。 ・相鉄エージェンシーと広報・協賛について連携しました。 ●経営アドバイザー会議 ・第1回会議 8月5日 第2回会議 2月10日に開催しました。広報・ホームページを中心にアドバイスがありました。 ・ホームページに館長メッセージを掲載するなど、アドバイザーからの意見を反映しました。 ●自己評価 財団の個別評価システムを活用して自己評価を行いました。 ●プロジェクトチーム ◇夏休み子どもフェスタプロジェクト ◇ボランティア学校プロジェクト 新採用職員に講師を担当させ、館内の人材育成にも活用しました。 ◇美術館前の賑わいプロジェクト 美術の広場で4回ジャズライブを実施しました。 ◇NEWショッププロジェクト ・首都圏美術館のミュージアムショップヘリアリングを行いました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・民間業者と連携し、ショップをリニューアルしました。 ・企業と連携し、ジュエリーを商品開発しました。 (金氏徹平展) <p>◇お正月プロジェクト(1/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金氏徹平氏のトークイベント ・若手マジシャンによるマジックショー
【管理】	
<p>①安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急レベルに応じた危機管理体制を整備します。 ・消防・警察との連携を図ります。 ・正確で安全な現金管理を行います。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防訓練 年2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●消防訓練を年2回行いました。 <p>第1回目 10月21日(火)</p> <p>第2回目 2月24日(火)</p>
【その他】	
<p>①個人情報保護について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員・スタッフ一同、取り扱いの重要性を認識し、業務を行っていきます。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人情報保護研修 全職員を対象に行います。年1回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●個人情報保護研修を3月3日(火)、6日(金)に全職員を対象に実施しました。
<p>②ホームページでの情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業報告及び収支決算、事業計画及び収支予算をホームページで公開します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理事会終了後1ヶ月以内に公開します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページで情報を公開しました。 <p>H20 事業計画及び収支予算 5月17日公開</p> <p>H19 事業報告及び収支決算 7月4日公開</p>
<p>③収蔵作品目録の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新収蔵作品について目録を作成します。 <p>〈指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ●収蔵作品目録 ・2007年度版を3月31日に発行しました。

5 決算

平成 20 年度 横浜美術館決算

収入

(単位:円)

項目	決算額	備考
指定管理料	550,000,000	
利用料金	45,676,650	コレクション展、レクチャーホール、特別利用料(図版等)
事業収入	229,680,409	企画展、アトリエ、美術館塾、AIMY/NAP/拠点形成、図書事業等
助成金等	84,037,262	観客誘致協賛金、企画展、AIMY/NAP/拠点形成助成金等
その他収入	140,442,034	ショップ、駐車場、カフェ、負担金収入、特定預金取崩収入等
合計	1,049,836,355	

支出

(単位:円)

項目	決算額	備考
人件費	285,945,064	旧一般会計分
事務費	29,622,037	美術館運営事務費
管理費	340,539,479	施設管理経費等
事業費	309,679,169	企画展、コレクション展、アトリエ、観客誘致、学芸業務、図書事業等
負担金	997,025	年会費等負担金
その他の支出	81,818,704	ショップ、駐車場等経費
合計	1,048,601,478	

収支差額	1,234,877	
------	-----------	--

6 人員配置

項目	人数	備考
館長	1	
主席学芸員	1	
主席指導員	1	
副館長兼グループ長	1	学芸教育グループ長兼務
グループ長	2	学芸教育グループ長2(うち副館長兼務1) 経営管理グループ長1
リーダー	6	経営管理チームリーダー1、情報管理チームリーダー1 次席学芸員1、主任学芸員2 主任指導員1
職員	28	経営管理グループ10 学芸教育グループ18
計	40	学芸員12 指導員8 司書3 事務職17

7 平成 20 年度事業一覧

事業名	開催日	主催・共催・後援・協力	入場料 受講料	目標 人数	入場者 合計
木下孝則展	4/11 -6/8	主催:横浜美術館 共催:神奈川新聞社/TVKテレビ 後援:NHK横浜放送局/横浜市市民活力推進局 /公募美術団体 一水会 協力:京浜急行電鉄/相模鉄道/みなとみらい線 /横浜ケーブルビジョン/横浜市 ケーブルテレビ 協議会/FMヨコハマ 特別協力:共立女子大学・共立女子短期大学 協賛:一水会 神奈川一水会	一般 900 (800)円 / 大学・高校 生 600(500) 円/中学生 400(300)円	26,000	16,792
茂木健一郎・は な・角田光代・荒 木経惟 4人が創 る「わたしの美術 館」展	6/20 -8/17	主催:横浜美術館 共催:神奈川新聞社、tvk 後援:NHK 横浜放送局、横浜市市民活力推進局 協力:京浜急行電鉄、相模鉄道、みなとみらい線、 横浜ケーブルビジョン、横浜市ケーブルテレビ協議 会、FMヨコハマ	一般 900 (700)円 / 大学・高校 生 600(400) 円/中学生 300(200)円	30,000	24,992
特別展 源氏物 語の 1000 年—あ こがれの王朝ロマ ン—	8/30 -11/3	主催:横浜美術館 共催:NHK/NHK プロモーション 後援:横浜市市民活力推進局 協力:京浜急行電鉄/相模鉄道/東京急行電鉄/み なとみらい線/横浜ケーブルビジョン/横浜市ケーブ ルテレビ協議会/FMヨコハマ/ランドマークプラザ 企画協力:京都文化博物館 特別協力:源氏物語 千年紀委員会 協賛:大日本印刷/三井住友海上火災保険	一般 1,300 (1,000)円 /大学・高 校生 700 (500)円 ◎中学生以 下は無料	210,000	133,582

セザンヌ主義— 父と呼ばれる画 家への礼讃	11/15 -1/25	主催:横浜美術館 共催:日本テレビ放送網 読売新聞社 後援:フランス大使館 横浜市市民活力推進局 協力:日本航空 日本通運 JR東日本 京浜急行電 鉄 相模鉄道 東京急行電鉄 みなとみらい線 BS 日テレ シーエス日本 横浜ケーブルビジョン 横浜 市ケーブルテレビ協議会 tvk コミュニケーションズサ ービスカンパニー ラジオ日本 文化放送 J-WAVE 81.3 FMヨコハマ 元町ショッピングストリート 株式 会社キタムラ ランドマークプラザ	一般 1400 (1300)円 /大学・高 校生 1100 (1000)円/ 中学生 800 (700)円	300,000	148,961
コレクション展	4/5 -3/1	主催:横浜美術館	一般 500 (400)円 / 大学・高校 生 300 (240)円/ 中学生 100 (80)円	575,300	347,335
子どもに対する取 り組み事業	4/1 -3/31	主催:横浜美術館	わくわく1日 造形講座@ 1,000円/ わくわく日 曜造形講 座、夏休み 造形講座@ 3,000円/ 長期日曜造 形講座@ 6,000円/ 教師のため のワークショ ップ@6,000 円	31,560	32,290
市民の創作活動 支援事業	4/8 -3/28	主催:横浜美術館	32種類 56 コース 受講料	5,940	5,170

			4,000 円～ 38,000 円		
アーティスト・イン・ミュージアム 横浜	7/5 -8/17	主催:横浜美術館 協力:東京藝術大学大学院映像研究科	0	3,000	2,843
New Artist Picks	11/8 -1/25	主催:横浜美術館 協力:ARATANIURANO 協賛:三本コーヒー株式会社、Cafe 小倉山	0	8,000	18,000
協賛金獲得プログラム「Heart to Art」	4/1 -3/31	主催:横浜美術館 共催:Heart to Art プログラム参加各企業 協賛:Heart to Art プログラム参加各企業	-	-	-
YMA クラシックライヴ	5/3 -1/24	主催:横浜美術館 共催:横浜音楽文化協会 協力:横浜市市民活力推進局、神奈川新聞社、 tvk、RF ラジオ日本、FM ヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会 協賛:横浜信用金庫	-	1,200	1,200
横浜美術館塾 2008 年度	4/13 -3/31	主催:横浜美術館 協力:横浜市市民活力推進局、神奈川新聞社、tvk、RFラジオ日本、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会 協賛:CONDE HOUSE	年間 21 講座 受講料 15,000 円 ～42,000 円	3,000	1,660